



子どもたちの空間認識能力を鍛えるために

プロの将棋界に新星が現れました。中学2年生の藤井聡太君です。彼は、昨年の10月に将棋史上最年少(14歳2か月)でプロ棋士となる4段に昇段を決めました。その藤井聡太君の強さの秘密が1月16日NHK「クローズアップ現代」で特集されました。

藤井君のデビュー戦対局相手は、現役最高齢76歳の加藤一二三九段でした。年の差62歳の対決で注目を浴びました。加藤九段はこれまでにタイトルを8期獲得し、一般棋戦優勝も23回を数える偉大な棋士ですが、藤井君は、加藤九段に大逆転で勝利したのです。

形勢厳しい序盤、なんと終盤大逆転を演じる勝負の駒を直感だけで盤上に打ったことに注目が集まりました。何十手も先に勝利の決め手になるこの一手を打ったその直観力には、羽生善治永世名人も驚愕したと言います。



藤井聡太君の何十手先を読む直観力は、積木＝立体パズルによって育てられ鍛えられたとも言われています。

実は、理化学研究所の実験によって、積木＝立体パズルは、脳のけつ前部を活性化し、立体・空間的な構造を理解する(空間認識能力)ことも証明されています。

空間認識能力とは、物体の位置・方向・姿勢・大きさ・形状・間隔など物体が三次元空間に占めている状態や関係を、すばやく正確に把握、認識する能力のことです。

空間認識能力は、後天的に自ら創り上げていくもので数や言語の基礎能力となるととても大切な能力です。正月のテレビ番組でも、有名な私立小学校が、授業の中で空間認識能力を高めるため立体パズルを使った授業の様子が放送されました。

空間認識能力は、親の働きかけによって劇的に改善するとも言われています。空間認識能力を鍛えるための方策として、生物人類学者グエン・デワー氏の記事を参考にまとめてみました。

【玩具を与える】

組み立て式の玩具、ブロック、積木、折り紙が有効です。いろいろな形を作ることが可能で、自らのアイデアを形にするのなら、空間認識能力だけでなく想像力を培う事にもなります。今は、インターネットで検索しても様々な工作アイデアを参考にできます。



【空間認識を促す言葉をかける】

「丸」「三角」「球」「大きい」「小さい」「高い」「ゆがんでいる」といった「形」や「空間的特徴」を表す言葉を豊富に用います。何かと忙しい日常生活では、ついつい「これをアソコのソノヘンにしまっておいて!」などと言ってしまいがちですが、「この丸い器を、あの背の高い戸棚の、上から三番目の棚の真ん中にしまっておいて」など空間認識能力を促す語彙を意識して使うことが大事です。

その他に、【日常生活の様々な場面で空間認識能力を促す質問をする】【地図を見たり、作ったりする】【カメラを使わせてみる】などがあります。

私は、高さや遠近を感じる遊具遊びも大切であると考えます。特にジャングルジム遊びを勧めます。立体空間をじかに体験できるからです。実はその体験が中学校数学の空間図形分野で生きてくるのですよ。

TVゲームばかりでは、空間認識能力は育ちません。お金をかけなくても、日常会話や普段の遊びを少し工夫して、親子で「空間認識能力」を伸ばしていきたいものです。

鼓笛引継ぎオリエンテーション

19日(木)4～6年生全員が多目的教室に集まり、鼓笛引継ぎオリエンテーションが行われました。3月1日(水)に行われる「6年生を送る会」の中で「鼓笛引継ぎ式」が行われます。そこで4～5年生が鼓笛の演奏を披露します。当日に間に合うようにと6年生が4～5年生に指揮の仕方やポンポンの動き、楽器の演奏の仕方を熱心に教えています。

6年生代表の熊田愛永さんから、「二小の伝統を受け継いで、素敵な鼓笛隊にしてほしい。」と激励の言葉がありました。4・5年生を代表して、5年生の五十嵐桃佳さんが「下級生にかっこいいと思われるように頑張ります。」と力強く宣言しました。



6年 熊田愛永さん



5年 五十嵐桃佳さん



4・5年生に熱心に教える6年生

オリエンテーションを終えて 6年2組 熊田 愛永

古くからの伝統でもある鼓笛が、受けつぎ受けつがれ、私たちから次の世代へとバトンタッチされました。少しさみしい気もしますが、4・5年生が目で感じ、耳で覚え、体で学ぶ真けんな姿を見てとてもうれしく思いました。全員が主役となり一つの完成作品を作り上げてもらいたいです。立派な音色を奏でるすてきな二小の鼓笛隊になることを心から期待しています。

気持ちからのプレゼント 5年3組 伊藤 木乃香

いよいよ鼓笛の練習が始まる。今の気持ちは、4年生に教える立場になったというドキドキだ。このドキドキが私に3学期の鼓笛の目標を与えてくれた。

それは、4年生に不安を持たせないようにすることだ。私は去年、不安で仕方なかった。だが、5・6年生がしっかり教えてくれたので自信をもって演奏することができた。だから私も、自主練習をして、自分も自信をもって演奏し、4年生を支えていきたい。

そして、だれに見られても「かっこいい」と思われる二小鼓笛隊にしたい。

須二中の中学校生活を聞く会

20日(金)に本校卒業生の2年杉原愛さんと阿武隈小の卒業生の1年柳沼幸多君が来校し、6年生に中学校生活の学習や生活について分かりやすく説明してくれました。

中学生の話を聞いて 6年 関根 奈々

中学生はやはり立派でした。私たちの質問にははっきりと分かりやすく答えていました。私も2人の中学生のようになりたいと思いました。私は、勉強をしっかりやりたいと思います。中間テストや期末テストがあり順位を出されると聞きました。今、自主学習を70分以上やれるようになってきたので、もっと努力したいと思います。また、教科ごとに先生も変わり、宿題も多そうだけれど、今からがんばって準備をしたいと思います。

部活動は考え中です。ゴルフを続けていけるような部活動に入るつもりです。杉原さんや柳沼君のような立派な中学生になるために授業や家庭学習もがんばります。



二小の子どもたちの活躍！ 栄光をたたえて

○日本赤十字社第11回「赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」

低学年の部全国入選 2年 鈴木 悠愛 「すいかわり たたくとわれる はずなのに」

○福島県教育委員会主催「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」

県中域内奨励賞 4年 八東 海人 「目玉やき やいて母の 帰り待つ」
母 八東 美和 「顔浮かび 仕事が進まず 気も焦る」

○新春書道展 市教育長賞 1年 武田優那 市議会議長賞 3年 渡辺 蒼唯

推薦 2年 松井彩華 4年 渡部奈々 佐藤詩 5年 馬場晶珠 6年 渡辺瑞季 山本香澄

※ 金賞受賞者は次号で掲載します。